

経営比較分析表（令和3年度決算）

宮城県 仙台市

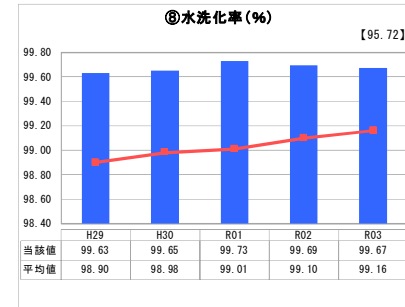
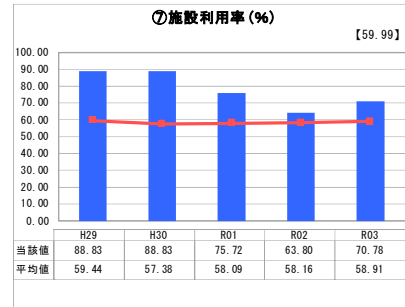
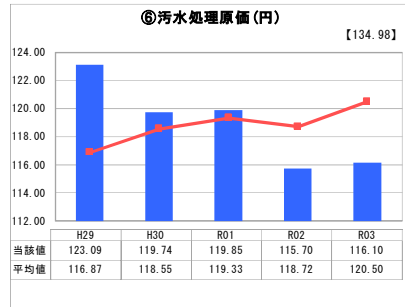
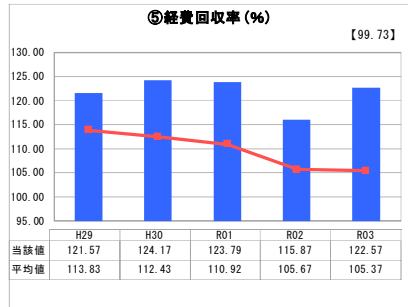
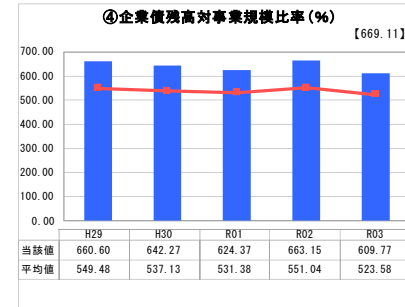
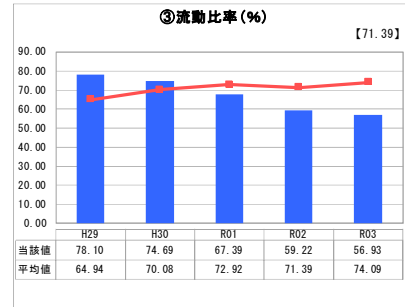
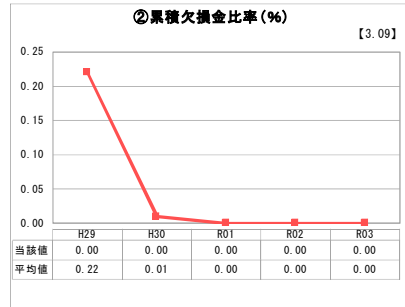
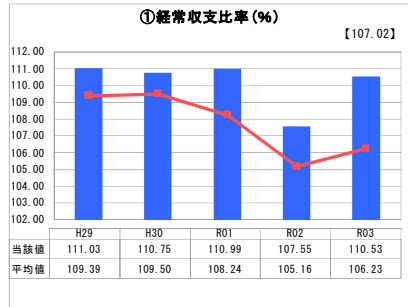
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	政令市等	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	有収率 (%)	1か月20m ³ 当たり重産料金 (円)
-	70.67	98.50	97.48	1,917

人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
1,065,365	786.35	1,354.82
処理区域内人口 (人)	処理区域面積 (km ²)	処理区域内人口密度 (人/km ²)
1,046,356	172.09	6,080.28

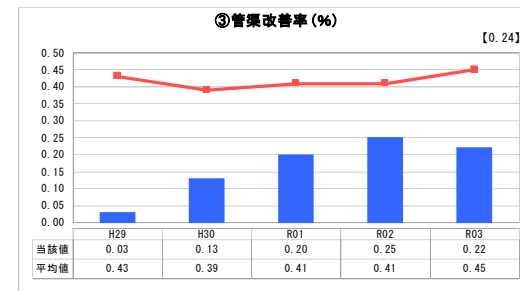
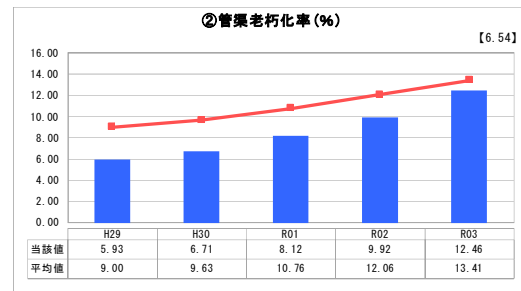
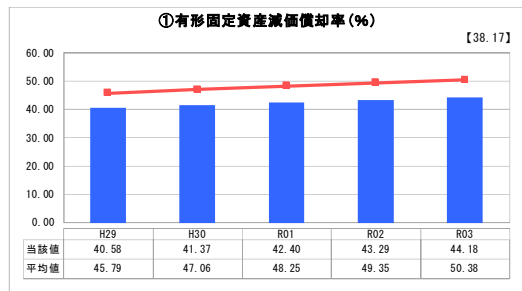
グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

「経常収支比率」、「経費回収率」は100%以上で推移し、累積欠損金も生じていないことや、「汚水処理原価」も類似団体平均と同等となっていることから、安定的な経営状況にあると言えます。

「流動比率」は100%を下回っていますが、経営状況は黒字であり、企業債償還の財源も確保できていることから、支払能力に問題はありません。

また、「企業債残高対事業規模比率」は、類似団体平均を上回っていますが、年々減少してきており、今後も企業債の償還額が借入額を上回る見込みから、企業債残高はさらに減少する見込みとなっています。

その他、「施設利用率」は類似団体平均よりも高率で推移しております(※)。

※ 「施設利用率」について、表に記載のH29年度～H30年度本市実績は、国へ実績報告時の数値ですが、その後の訂正により、正しくは次の通りとなります。H29：73.27、H30：73.27。

2. 老朽化の状況について

「管渠老朽化率」は類似団体平均より低率で、施設の老朽化は比較的進んでいない状況であることから、「管渠改善率」も類似団体平均を下回っている状況です。

全体総括

本市下水道事業は安定的な経営状況となっておりますが、長期的には人口減少により下水道使用料などの収入が減少する一方で、老朽化の進行などによる施設の更新や維持管理などの費用が増加することが確実であり、厳しい経営環境となることが予想されます。

そのため、将来を見据えて、個別訪問などによる水洗化率の向上や接続調査などの不明水対策による有収率の向上、施設の長寿命化によるライフサイクルコストの低減など、収入の確保・費用の低減に取り組み、安定的・効率的な経営に努める必要があります。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。